

編集後記

『記録と史料』第24号をお届けします。

いま会誌『記録と史料』への研究論文（論考）の投稿状況は芳しくありません。本会関係機関の刊行物の充実や競合する学術雑誌の存在も影響しているでしょう。ぜひ会員・読者の皆様のご協力をお願いいたします。第1号末尾の言葉を再掲します。「本誌に投稿を！」

それでも100ページをこえた今号は、本会の特徴のあらわれた内容となりました。地方公共団体の公文書管理条例の状況・位置をめぐる特集論文は、地域に根ざした対応だけでなく文書管理の実践・実務の前提を強調して示唆的におもえます。アーキビストの眼は、自著紹介（解説）を通した論点提示、個人の活動から照らした地域資料保存活動史、セミナー記録とそれに応じた〈我が事〉を含む批評、といずれも鋭い。アーカイブズネットワークでは、7つの活動・話題を寄せていただきました。書評と紹介は、大学アーカイブズ、県史の一つの姿、地方史活動の論集、企業アーカイブズ、の計5冊に注目しています。資料ファイルは、国内のアーカイブズ専門職の問題に思考をひろげる材料となります。

本会の特徴？訝しむ声もあるかもしれませんが。本誌の紙面からは、本会の名称にみる「歴

史資料」をこえて〈アーカイブズ多様性〉がうかがえます。これを前提にした〈実践〉の議論が、該当するのではないのでしょうか。本誌に対し「学術雑誌なのか？」という声も耳にしたことがあります。歴とした学術雑誌です。各記事の直接の著者のほか、多くの人びとが本誌にたずさわっています。編集の活動の背景には、本会の活動、アーカイブズに関わる活動があります。その活動の記録とそれをめぐる議論を残すことが、本誌本来の役割です。そこには、いわゆる学会の学術雑誌とすこし違った学究性があります。

本会の全国大会と同じように、会誌の場も会員・読者の交流の場であり議論の場です。本誌の記事から、会員はじめアーカイブズ関係者の顔やその人たちの話、主張がおもいうかべば成功で、みずからの実務に生かせればなおよい。その結果を、本誌、本会にまたご報告いただければ、と願っています。大会の閉会に際し「1年後、皆様にまたお目にかかれますよう」とあったのと同じように、多くの皆様に本誌でお目にかかれればとおもっています。 (重)

〔広報・広聴委員会〕

小島 輝雄 (委員長)

相京 眞澄 (編集長)

伊藤 康 櫛原 直樹

五島 敏芳 谷岡 能史

高木 秀彰 (事務局)

会誌 記録と史料 第24号 平成26年3月31日

編集： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会
〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1 寒川文書館
電話 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

発行： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 (会長 八津川和義)
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県立文書館
電話 082-245-8444 FAX 082-245-4541

印刷： 徳島県教育印刷株式会社
〒770-0873 徳島市東沖洲2-1-13
電話 088-664-6776 FAX 088-664-6775